

企業名： 小松製作所

レポート名： コマツレポート 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

コマツレポートではグローバル化と持続可能な社会の実現について繰り返し述べられていてニーズにこたえるための製品づくり、多角化、温暖化ガス排出削減ということが大きな目標であるということが分かりやすく書いてある。また、具体的な目標として2030年までにCO2排出量50%削減、2050年までにカーボンニュートラルを達成することを掲げていて会社の目指す姿は理解しやすい報告書だと思う。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

正直なことを言うとあまり理解できない。小松製作所はショベルカーなどの建設機械やプレス機等の工業機械において高いシェアを誇っているがこの報告書を見ても今小松製作所が消えたとして困ることというのがいまいち思いつかない。というのもこの報告書では各セグメントの売上は書いてあるがそれがその市場でどれほどのものなのかが分からないからだ。ただし、この報告書には未来の計画が多く書かれており、Honda や米国プロテラ社と共同した計画に取り組んでどんな動力源でも稼働可能なパワーアグノスティックトラックや効率的な中型バッテリー、電動マイクロショベルの開発を進めていることが明かされている。これは将来的な企業の独自性、すなわち競争優位性を表していると言える。総合して、この報告書では現在の競争優位性を詳しく知ることは難しいが、将来的に得られるであろう競争優位性を理解することは可能である。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

先程2の項目で述べたように現在の競争優位性というのは伝わってこなかったためそこに持続性があるかを判断するのは難しいがこの企業の成長性、将来性という観点からこの問題を見ると、報告書に書いてある直近3年間の連結売上高、営業利益率、ROEが減少傾向であることから持続性は低いとみられる。しかし、未来の計画というものが報告書の中ですごく丁寧に説明されており、その計画性がひしひしと伝わってくる。このことから、これから業績は修正、改善されていくだろうと感じられる。総合して、私はこの会社に持続性はあると考え、そして私がこう判断できたことから持続性は十分に理解できる報告書であると言える。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

結果から先にいうと答えは「はい」である。この報告書では社員の力、すなわち人的資本を大切にしている優秀な人材の育成に力を入れていることが明記されている。さらに、その内容はグローバル人材の育成や AI 教育に比重を置いていて小松製作所が海外支社を多く持っていることを加味すると世界で活躍できるような人間、具体的には海外で経験を積んだ人間、もしくは現代で主流である AI に精通した人間になるためにとってもよいところであると思う。ただ 1 つ私的なことを言うと、あくまでここで磨けるスキルはエンジニアリングであるため、私の得たい商業系のスキルは磨けないので人によって向き不向きがあるように思える。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

ここまで 1.2.3.4 と項目を見てきて現在の企業優位性があまり伝わってこないということが改善されたほうが良いかと学生の私目線からは思う。そこで私が思う改善案としては「コマツの強み」という項目で述べているコンポーネントの自社開発のところなどで企業目線の強みだけでなく消費者目線で消費者が恩恵を受けられることを書くと素人目でも競争優位性が理解できてよいと思う。総評して、基本的に企業の過去、現在、未来がすべて丁寧に書かれている良い統合報告書だと思う。